

第三回発起人会

1982年 9月29日（水）午後 6時半より、新宿「談話室滝沢」で、第三回発起人会を開催。出席者は、石井敦（東洋大）、河井弘志（大東文化大）、川崎良孝（椙山女学院大）、寺田光孝（図書館情報大）、常盤繁（独協大）。小川徹（法政大）、藤野幸雄（図書館情報大）の 2名は所用で欠席。

まず、12月 頃に予定していた第一回研究大会の日程等を検討し、下記の要領で実施することに決定した。

第一回図書館史研究会 日程

日時 昭和57年12月12日（日） 13：00—17：00

場所 東洋大学

プログラム

挨拶・趣旨説明	藤野幸雄	13：00—13：30
研究発表	3名	13：30—15：00
（テーマ 「図書館史の課題」）		
討論		15：00—15：20
休憩		15：20—15：30
総会		15：30—17：00

研究発表者 3名は一般から募集することになった。応募が多数の場合は第二回研究会以降に繰り下げることもある。申込みの要領は別掲の通り。

プログラムの明細は次回発起人会（11月 8日（金）の予定）で作成する。

研究発表・討論のあとの総会は、事実上図書館史研究会（仮称）の創立総会となるものと思われるが、会の活動方針や組織などは、参加者の自由討論によって決定されるとしても、発起人会としては一応の原案を用意しておいた方がよいということになった。

そこで会のあり方などについて、いろいろ意見をかわした。その要点を記せば、次のようなものである。

1. 会の活動の方針 先に配布した「趣意書」を、そのまま会の活動方針としていいのではないか。

2. 研究会 会員が全国的な規模になると、あまり頻繁に研究（大）会をおこなうことはできなくなるが、年 1回、年 2回、年数回など、一定間隔で研究会を行うことにしたい。

3. 会誌 会誌はぜひ発行したい。会員の会費によって発行すれば、趣旨を守ることができるが、財政的負担が大きくなる。出版社等にひきうけさせるためにはある程度会員数が必要であるが、どれだけ会員ができるか見通は決して明るくない。どこの学会

にも所属しない方針なので、学会等から補助を受けることはできないだろうし、現存の研究誌等に特別のスペースをとってもらうこともできない。更に検討する必要がある。

4. 会費 会員の特典といえば、図書館史という限られた分野で研究発表し、専門研究誌を購読できる、ということになるが、これだけのメリットでは、余り多額の会費を徴収することはできない。

5. 事務局 世話人(幹事)の持ちまわり、という方法も考えられるが、煩雑になるおそれもあるので、一応どこかに定めた方がよい。図書館情報大(寺田)では、来年度以降の予定がわからず、また事務局の業務量がどれくらいになるかも不明なので確約しがたい。総会出席者にはかって、検討しなければならないが、万一誰も引きうけないことにでもなれば、椙山女子学院(川崎)、独協大(常盤)のいずれかで引きうけてもよい。しかし、諸般の事情を考えると、東洋大(石井)で引きうけてもらうのが一番いいのではないか(石井は所用で途中で帰ったので、のちに検討をお願いすることにした)。なお、事務局の行う業務は、会誌印刷・発送、会費受付、会計管理、ニュースレター発送などであろう。

6. 世話人 会の運営主体は、理事会・会長という本格的な形にせず、世話人会(幹事会)程度にとどめた方がいいのではないか。しかし、これも最終的には総会で検討しなければならない。

7. レフェリー(編集委員会) 会誌には投稿されたすべての論文を発表するのではなく、一定のレベル以上のもにに限る方針であるから、論文を審査するためのレフェリー(編集委員会)をおく必要がある。

これらの問題点を石井の方で整理して、次回発起人会にはかり、総会にかける原案を作成することにした。

上にあげた諸問題は、結局会の規約にまとめられるべき事項であるが、第一回の総会でいきなり規約を作り上げることにはかなりの困難が見込まれるし、まだ会の活動を全然やっていない段階で規約を作ってしまうと、その後の会活動の自由な発展を妨げることにもなりうるので、規約の作成については時期尚早とする意見が多かった。

#### 研究発表申込み要領

申込み方法	別紙にテーマ・要旨(400字程度)等を書いて申し込むこと。
申込み期限	昭和57年10月30日(土)必着
申込み先	〒305 茨城県筑波郡谷田部町春日1丁目2 図書館情報大学 寺田光孝気付 図書館史研究会(仮称)



# 国史研究会(仮称)運営方針(案)

1. 会の名称 図書館史研究会(仮称)でよいか。

2. 会の目的・趣旨

(1) 趣意書のとおり。

(2) 図書館史の研究を目的とする。

(3) 図書館史の充実した討論及び  
発表の場を設けるため。

3. 事業

(1) 年次大会

(2) 小研究会(随時)

(3) 研究セミナー

(4) 機関誌の発行(年1回・2回)

(5) 会報・ニュースレターの発行

(年 回)

4. 会員

(1) 個人会員に限るか。

・ 団体(施設)会員も認めるか

(2) 自由加入・推薦制・資格を考えるか

5. 会費 最低年額 1,000円 学生(大学院生も含む)  
(機関誌代は別) 500円.

6. 運営 今年度は現在の発行人会に何人か  
参加しうる人が加わって運営委員会を  
組織する.

(1) 研究, 連絡

(2) 編集, 出版

(3) 庶務会計

7. 事務局 楊山女学園大学

〒464 名古屋市千種区田代町

瓶木 1-254

機関紙 A5 64p. (9ホ) 500部 @ 850円

1P. 1000字. 1000部 @ 600円

(1P. 1000字. 400字 160枚, 30枚の論文4本)